国際経済論

天野明弘
渡部福太郎 編

有斐閣大学双書

国際経済論

＊理論と政策の現代的展開＊

天野明弘
渡部福太郎　編

有斐閣
大学双書

有　斐　閣

■編者紹介

天野明弘（あまの あきひろ）

昭和9年大阪に生まれる。昭和31年神戸大学経営学部商業科卒業

現　在　神戸大学経営学部教授。Ph. D.，経済学博士

主　著　『貿易と成長の理論』（有斐閣，昭39）
『国際経済学』（共著，岩波書店，昭47）
『国際収支モデルの研究』（共著，経済企画庁経済研究所，昭48）

渡部福太郎（わたなべ ふくたろう）

大正13年新潟に生まれる。昭和22年東北大学法文学部経済科卒業

現　在　学習院大学経済学部教授。経済学博士

主　著　『景気変動と国際収支』（創文社，昭37）
『日本の貿易と国際収支』（共著，東洋経済新報社，昭42）
『経済成長と貿易構造』（共著，勁草書房，昭43）
『国際通貨入門』（東京大学出版会，昭48）
『国際経済学』（東洋経済新報社，昭48）

国際経済論—理論と政策の現代的展開　〈有斐閣大学双書〉

昭和50年5月1日　初版第1刷印刷
昭和50年5月10日　初版第1刷発行

¥2,400

編者　天野明弘
　　渡部福太郎

発行者　江草忠允（えぐさ ただあつ）

発行所　株式会社　有斐閣（ゆうひかく）

東京都千代田区神田神保町2-17
電話東京（264）1311（大代表）
郵便番号〔101〕　振替口座東京6-370番
本郷支店〔113〕　文京区東京大学正門前
京都支店〔606〕　左京区田中門前町44

印刷　株式会社　精興社
製本　株式会社　高陽堂

© 1975，天野明弘・渡部福太郎．Printed in Japan.
落丁・乱丁本はお取替えいたします。

3333-093100-8611

はしがき

国際経済現象は，各種各様の利害がからみあうために，はなはだ複雑な様相を呈している。その上，国際経済の場では政治が経済と深いかかわりをもつことが多く，そのため単純に経済的世界だけに視野を限定しきれない問題も少なくない。政治的世界での動きが国際経済の動きを攪乱してしまうとき，われわれは国際経済がそれ自体のメカニズムで動いているのかどうかわからなくなってしまうこともたしかにある。極端な場合，国際経済という舞台にたつ踊り手も観客も，政治的世界のかもしだす熱気によって上気させられ，まばゆい照明に目がくらんで，舞台でのドラマそのものの筋を見失ってしまうことさえある。そんなときには，必ずしも妥当とも思われないさまざまの解釈や激しい反応がそこに入り乱れることになる。そうなれば，国際経済現象は複雑にして捉え難いもの，ということにならざるをえないか，あるいは逆に，それが極端に単純なものとして独断的に受けいれられてしまう。しかし，国際経済の動きを支配するメカニズムは，むしろそうした熱気が去り，スポットライトが消えたときに，その存在が確認されることが多い。

国際経済の流れは，多くの外的な要因やそれとの相互作用の過程においてその速度を変え，あるいは流れの方向を変える。それはあたかも水の流れにたとえうるような側面をもっている。水の流れは周囲の諸条件によっていろいろと変わるし，その諸条件の操作によって変えることもできる。しかし水は自然に高所から低所へむかって流れていくという基本的特性をもっている。それと同じように，国際経済の流れの場合にも，そこに1つの自律的な動きとも呼ぶべき部分が厳として存在している。外的諸条件に依存して，その表面にあらわれたところは複雑な様相を呈したり，または混乱した様相を呈するとしても，その経済的世界における自律的な運行のメカニズムは根底において作用しつづけている。

国際経済の問題を解明するには，少なくともこの国際経済の運行の基本的メカニズムを知っておくことが必要であろう。個々の経済主体が国民経済という実体的存在を通しておこなう国際的な経済活動は，国際経済における独特の相互依存と相互対立をうみだすことになるが，この重層的な諸関係のなかから生み出されてくる国際経済現象は，この運行の基本的メカニズムの理解なしには解明がむずかしい。

この書物が意図したものは，まさにこの基本的メカニズムの解明である。それと同時に，国際経済現象がきわめて現実的なものである以上，つねに理論と現実との接合領域にたいして照明をあてる努力が払われなければならない。そうでなければ，国際経済問題の解明も理論的遊戯となってしまう危険がある。本書では，その点を考慮して理論的な分析を深くおこなうとともに，現実との関連に力点をおいた考察をおこない，理論と応用とがうまくかみあうよう努力した。それが成功したであろうことを願っている。

最後に，この書物のために協力の労をおしまれなかった執筆者の方々にたいし，心からお礼を申しあげるとともに，この書物の立案計画から出版まで，その力を傾倒された有斐閣の池淵 昌，石塚 務の両氏にたいし，厚くお礼を申しあげたい。

1975年3月

天野明弘
渡部福太郎

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

♣ 執筆者紹介・執筆分担

天野　明弘（あまの・あきひろ）
神戸大学経営学部教授　序章，第7章，第8章

池本　清（いけもと・きよし）
神戸大学経済学部教授　第1章，第3章

大山　道広（おおやま・みちひろ）
慶応義塾大学経済学部助教授　第2章，第4章

渡部福太郎（わたなべ・ふくたろう）
学習院大学経済学部教授　第5章，第6章

大西　昭（おおにし・あきら）
創価大学経済学部教授　第9章

丹羽　春喜（にわ・はるき）
筑波大学社会科学系教授　第10章

島野　卓爾（しまの・たくじ）
学習院大学経済学部教授　第11章，第13章

菊地　元一（きくち・もとかず）
公正取引委員会　第12章

木村　滋（きむら・しげる）
関西大学商学部教授　第14章

芦矢栄之助（あしや・えいのすけ）
成蹊大学経済学部教授　第15章

目　次

序　章 …… 1

1. 国際経済論の課題と方法 …… 1

2. 本書の構成 …… 7

第1編　貿易と貿易政策

第1章　国際分業の基礎 …… 11

1. 比較優位の理論 …… 14

1-1　絶対生産費説（14）

1-2　比較生産費説（15）

1-3　貨幣タームによる比較優位の理論（21）

1-4　貨幣賃金率と比較優位（23）

1-5　多数国多数財と比較優位（25）

2. 要素賦存比率理論 …… 26

2-1　生産関数（26）

2-2　ボックス・ダイアグラムと変形曲線（30）

2-3　要素賦存比率理論（34）

2-4　要素価格均等化命題（37）

2-5　レオンティエフの逆説（38）

3. 特殊的要素理論 …… 43

4. その他の新しい理論 …… 49

4-1　アベイラビリティ説（49）

4-2　代表的需要理論（49）

4-3　規模の経済論（50）
4-4　労働熟練説（51）
4-5　R＆D論，技術ギャップ説，プロダクト・サイクル論（52）
4-6　ディストーション説（53）
4-7　発展段階差（54）
4-8　社会主義国の貿易効率（55）
第1章の練習問題（56）

第**2**章　国際貿易の一般均衡分析 ―――― 57

1.　国際貿易の一般均衡 …… 60
1-1　モデルの諸仮定（60）
1-2　需要と供給（62）
1-3　自由貿易均衡（66）
1-4　オファー曲線（69）

2.　貿易利益とその前提 …… 72
2-1　社会的無差別曲線（72）
2-2　実質所得と交易条件（75）
2-3　貿易無差別曲線（78）
2-4　世界の貿易利益（82）

3.　安定条件と比較静学 …… 83
3-1　自由貿易均衡の安定性（84）
3-2　マーシャル＝ラーナー条件（87）
3-3　輸入需要の価格弾力性（91）
3-4　トランスファー問題（93）
第2章の練習問題（97）

第**3**章　経済成長と貿易 ―――― 99

1.　経済成長と貿易 …… 102
1-1　生産効果――リプチンスキー定理（102）

1-2 生産効果——リプチンスキー定理の拡張 (107)

1-3 生産効果——特殊的要素理論 (113)

1-4 生産効果——技術進歩 (117)

1-5 消費効果 (122)

1-6 総合効果 (123)

2. 経済成長と交易条件……126

2-1 オファー曲線分析 (126)

2-2 窮乏化成長 (127)

2-3 ジョンソンの基本方程式 (129)

第3章の練習問題 (131)

第4章 貿易政策——133

1. 輸入関税の効果分析……135

1-1 輸入関税と交易条件 (136)

1-2 輸入関税と国内価格 (139)

1-3 輸入関税と所得分配 (141)

2. 関税政策と貿易政策……143

2-1 最適関税の理論 (144)

2-2 過渡期の諸問題 (147)

2-3 貿易政策の諸手段 (150)

3. 貿易政策と国内政策……154

3-1 国内政策の効果 (155)

3-2 数量政策と価格政策 (159)

3-3 保護貿易論の諸形態 (162)

第4章の練習問題 (167)

第2編　国際収支と資本移動

第5章　国際収支と所得分析 ―――― 171

1.　国民所得水準の決定と国際収支 …… 171

1-1　有効需要の構成要因（171）

1-2　有効需要と総供給の均衡（174）

1-3　国際収支の決定（178）

1-4　乗数効果――輸出増加のケース（180）

1-5　乗数効果――国内支出増加のケース（183）

2.　国際経済における乗数効果と国際収支 …… 187

2-1　各国経済の相互連関（187）

2-2　国内支出変化の相互波及（189）

2-3　国際収支への影響（191）

第5章の練習問題（195）

第6章　国際収支とその調整 ―――― 197

1.　国際収支表の構成 …… 197

1-1　家計部門の会計表（197）

1-2　政府部門の会計表（199）

1-3　企業部門の会計表（201）

1-4　3部門の会計表の統合（205）

2.　国際収支の均衡 …… 206

2-1　4つの部門の変化勘定（207）

2-2　国際市場の均衡（210）

2-3　国際収支の均衡（210）

3.　外国為替市場の分析 …… 212

3-1　外国為替の需要と供給の均衡（212）

3-2　トランスファーがある場合（216）

4. 為替レートと国際収支 ……219

4-1 固定為替相場制（219）

4-2 物価水準の変化と均衡為替レート（222）

5. 輸入需要の価格弾力性と国際収支 ……226

6. 国際収支調整における諸問題 ……231

第6章の練習問題（236）

第7章 長期資本移動 ——239

1. 国際資本移動とその形態 ……239

1-1 国際資本移動（239）

1-2 国際資本移動の3つの形態（240）

2. トランスファー過程 ……242

2-1 完全雇用下のトランスファー過程（244）

2-2 不完全雇用下のトランスファー過程（245）

3. 間接投資 ……247

3-1 間接投資の決定要因（247）

3-2 間接投資の効果（249）

4. 長期貿易信用 ……250

4-1 輸出延払信用の供給（251）

4-2 輸出延払信用に対する需要（253）

5. 直接投資 ……254

5-1 3つの主要決定因（255）

5-2 その他の要因（259）

5-3 直接投資の利益（260）

第7章の練習問題（262）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第 8 章　短期資本移動 ―――――――――――――――――――――265

1.　短期資本移動とその形態 ……265

1－1　短期資本移動の形態（265）

1－2　短期資本移動と外国為替市場（266）

1－3　外国為替市場の 3 つの機能（266）

2.　利 子 裁 定 ……267

3.　先物為替の需要と供給……270

3－1　利 子 裁 定（271）

3－2　為 替 投 機（272）

3－3　輸出入の為替リスク・カバー（274）

3－4　ヘ ッ ジ（276）

3－5　先物為替取引の基本的動機（277）

3－6　先物為替理論への機能的接近と主体的接近（278）

4.　先物為替レートの決定 ……278

4－1　固定為替レート制度の下での先物為替レートの決定（279）

4－2　変動為替レート制度の下での先物為替レートの決定（281）

4－3　先物為替の保険理論（282）

5.　短期資本移動の決定要因 ……282

5－1　利子率の変化（283）

5－2　貿易収支の変化（286）

5－3　為 替 投 機（287）

5－4　リーズ・アンド・ラグズ（291）

5－5　先物為替レート決定の利子平価理論（294）

6.　短期資本移動と国内金融 ……295

6－1　短期資本の流入と銀行信用の拡張（295）

6－2　短期資本移動と金融政策（297）

第 8 章の練習問題（298）

第3編 国際経済関係

第9章 南北問題 ―― 303

1. 開発理論の歴史的系譜 …… 303

1-1 開発理論の国際的潮流 (303)

1-2 開発理論の諸類型 (305)

1-3 ミントの理論的寄与とその限界 (312)

1-4 地域的結合関係強化を通ずる経済開発理論 (315)

1-5 全地球的視野からの開発理論 (317)

2. 開発援助の意義と展望 …… 323

第9章の練習問題 (328)

第10章 社会主義圏の貿易 ―― 329

1. 東西貿易の基本条件 …… 329

1-1 冷戦の推移を背景に (329)

1-2 コメコンの変遷と機構 (334)

2. 東西貿易の過去と現状 …… 337

2-1 貿易額の発展とその地域構成 (337)

2-2 貿易収支の状況 (339)

2-3 商品構成 (344)

3. 社会主義圏内貿易の概観 …… 349

3-1 圏内貿易の伸びとそのシェアの動向 (349)

3-2 潜在貿易量との関係 (351)

4. 社会主義的国際分業 …… 352

4-1 コメコンの活動と圏内国際分業のパターン (352)

4-2 共産圏内における社会主義的国際分業の特質 (356)

5. 中国の貿易 …… 360

6. 東西貿易・社会主義圏内貿易の将来 …… 363

6-1　貿易マトリックスの予測（363）
6-2　共産圏諸国による対外経済援助（370）
6-3　先進資本主義国と社会主義国との経済協力（373）
第10章の練習問題（375）

第**11**章　経済統合 ―――― 377

1.　経済統合の政治的・経済的背景 …… 377
2.　制度的統合と機能的統合 …… 381
3.　経済統合の経済学 …… 383
4.　経済統合の計画性 …… 385
5.　関税同盟の理論 …… 388
6.　経済・通貨同盟と最適通貨地域 …… 391
6-1　変動幅縮小（392）
6-2　欧州通貨協力基金（394）
第11章の練習問題（397）

第**12**章　多国籍企業 ―――― 399

1.　多国籍企業の基本的問題 …… 399
1-1　多国籍企業と直接投資論（399）
1-2　多国籍企業の定義（400）
2.　多国籍企業と直接投資の理論 …… 401
2-1　古典的直接投資論への批判と多国籍企業（401）
2-2　「経営資源論」と多国籍企業（402）
2-3　プロダクト・サイクル論（404）
2-4　寡占的競争の理論――国際分業論と多国籍企業（406）
3.　多国籍企業の行動類型，特質とその規制 …… 408
3-1　直接投資と競争圧力との関係（408）
3-2　トランスファー・プライシング（409）

3-3 国際的市場分割 (410)
3-4 国際的合併 (412)
3-5 技術独占的企業行動 (414)
4. 多国籍企業の行動規制と国際協力 ……415
4-1 国際協力の必要性 (415)
4-2 規制手続き面における国際協力 (416)
4-3 規制内容面における国際協力 (417)
第12章の練習問題 (418)

第4編 国際金融政策

第13章 国際収支政策 ——421
1. 国際収支政策の基本概念 ……423
2. 国際収支政策の内容 ……426
2-1 政策手段の割当問題 (427)
2-2 政策目標と政策手段の整合性 (428)
2-3 財政金融政策 (430)
2-4 為替相場政策 (433)
2-5 貿易政策 (434)
3. 国際収支調整負担の分担 ……435
4. 国際収支政策の実態 ……439
第13章の練習問題 (445)
第14章 ユーロダラー市場 ——447
1. ユーロダラー市場の発生と発展 ……448
1-1 ユーロダラーの定義 (448)
1-2 ユーロダラー市場発生の諸要因 (448)
1-3 ユーロダラー市場の発展 (449)

2.　ユーロダラー市場のメカニズム ……452

2-1　ユーロダラーの供給と需要（452）

2-2　市場の取引業務（453）

2-3　ユーロダラーの金利（454）

3.　ユーロダラーの諸影響 ……457

3-1　金利裁定，投機，ヘッジへの新しい機会（457）

3-2　為替相場と国際収支への影響（460）

3-3　国際流動性，ユーロダラー市場と国内の信用創造への影響（462）

4.　ユーロダラーに対する規制 ……464

4-1　国際金融協力とオイルダラーの還流（464）

4-2　各国のユーロダラー規制の主な形態（466）

4-3　わが国の短資規制（468）

5.　ユーロ債 ……474

5-1　ユーロ債の発生（474）

5-2　ユーロ債発行のしくみ（475）

5-3　ユーロ債の規模，種類と利回り（475）

5-4　ユーロ市場と多国籍企業（479）

第14章の練習問題（480）

第15章　国際通貨制度と国際通貨問題 ――――481

1.　国際通貨制度 ……481

1-1　国際通貨制度と世界経済（482）

1-2　国際通貨の供給メカニズム（482）

1-3　国際収支の調整メカニズム（494）

2.　金問題 ……502

2-1　金の国際流動性供給機能（503）

2-2　金の国際収支調整機能（512）

3. ドル問題 ……514

3-1 キー・カレンシーとしてのドル (515)

3-2 ドル本位制 (516)

3-3 過剰ドルの問題 (518)

4. SDR 問題 ……520

4-1 SDR 制度 (521)

4-2 SDR の性格 (523)

4-3 SDR 制度の問題点 (525)

第 15 章の練習問題 (526)

参考文献 ……527

索 引 ……539

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com